時事新報定價
時事新報ハ一年三百六十五日一日モ休刊セズ其代價遠
選料廣告料ハ左ノ如シ
一社二錢〇一箇月金五十錢〇三箇月金一圓五十錢〇六箇月金三圓
一箇年前金六圓
〇時事新報社ヨリ直接ニ郵便ニテ遠送スルモノニ限リ本文定價ノ外ニ一箇月二十六錢ノ郵送料ヲ申受ク

時事新報廣告料前金

一行廿四字詰	一行二付一日以上	一行二付二日以上六日迄	一行二付七日以上十五日迄	一行二付十六日以上
自一行至十行	十錢	八錢	七錢	六錢
自十一行至卅行	九錢	七錢	六錢	五錢
三十一行以上	八錢	六錢五厘	五錢八厘五毛	五錢

時事新報

蠶業に對する豪農小民進退（昨日の續き）

前號の紙上にも記きたる如く地方の豪農小民各自養蠶業に對するれ趣は今日恰も其方向を相違にする者にして一は資本に富めども其資本を利用きて米耕作を蠶業に轉ずるの先見少く一は又之に反して漫然養蠶の熱に浮かされ數歩の田圃悉く之に桑と植ゑながら差向ひ米麥菜蔬を卽ふぐの土地なくして究するの奇峽なひに非ず輔もも極端に馳せたるれ次第にまて中には貴產知識の二つを備へ自ら奮て地方に率先するの有志者ゐると雖も其數至て僅少なれば蠶業進歩實際の有樣は今日正に一種奇樣の地位に在る者と云はざる可らず抑も米耕作と養蠶との利益を比較して其相違の大なるは數に於て明白なるとも米耕作には數千年來の口碑習慣傳存して犯を可らざるの勢力ゐるが故に一朝頓に之を改ひるは容易からず即ち地方の豪農者は今尙ほ舊業に戀々して離るゝ能はざるの情實に居ながら顧みて世間を見渡せば蠶業の進歩思ひの外なる盛運にして眼前小前の農民が一反歩の地面を潰ぶし桑を植ゑて之より一石の繭を得るとすれば市場の價三十圓これに對して同じ我一反歩に米を作れば收獲平均二石にて所得尙ほ十圓外に上る能はず縱令へ實際には此の如き相違あらずとも明白なり果して然らば我も亦其輩に倣ひ敢て祖先傳來の家法を犯して斷然養蠶に從事せんか否な〳〵蠶業は投機者の仕事なる可し利益の大なるは取りも直さず又其危險の大なるを示すの理なれば徒に世間の流行を趨ふが爲めに我々素封家の家法を棄すは拙策なり兎やせん角と云正に思案の最中その進退に迷ふの餘なきに非ずと云へり新書事物交代の機に迫りて其局に當るの人々其判斷に苦しむは每々有勝ちの話よして特に最も保守精神に富む所の豪農社會に至りては米耕作と蠶業と孰れに方向を定む可きやと昨今其取捨に當惑するも亦怪むに足らざるあり

右の如く地方の豪農が前途の產業を決れ是れ思案して今日其方針に迷ふの有樣なるい唯本人聯見の足ると足らざるとの二つに在る者なれば我輩が傍より云々するの理由なきとなれども國の經濟より論ずる時は今の豪農社會の人の斷然機を相て養蠶事業と經營せざるは偏り其私に作富の道を失ふが爲めに惜むのみならず之を公けにしては全國れ大計を誤るの恐れありとして聊か無益なるを得ず即ち今日の時勢は是れ決で保守因循と稱ぜられたる一般地方の豪農ゲ初て多年の夢を醒まし漸くカと富業に奮さんとするの有樣に過り若實ある實本を養蠶に傾さんと欲して攻撃ち逡巡と催はを暫く世の成行を見れ奚なれ此際に當り能く此流の資本家を誘勵して斷然新業に從事せしむるの手段を爲すと否とに於ては國の將來に大關係なきと能はざる可し實に千歲に一時にして日本農民の前途をして幸不幸あらしむるの機、問髮を容れざるの今日に於て爰に又我輩が默して已む能はざるの一事と云ふは外ならず兩三年來日本米は海外輸出盛んにして既に一昨年い三百五十萬圓の巨額に上ゞ昨年中は實業家の所說に石數一百萬以上、今額五百萬圓にも達せゞならんと云へり嘗て地方の農民に將來米の海外輸出は非常に盛ゐある者なりと の迷ひを懷かし光一方には近時各府縣に行はるゝ米質改良の議論なるもの偶然にも之に投合して米耕作と奬勵するの勢ひなに非ず而して其影響の及ぶ所を如何にと云ふに彼の保守因循ある豪農者は直に之を迎へて他の一方に彌よ〳〵養蠶を投機業視するの風を促し今日までは都合に依らば蠶業に着手せんかと心構へさへ爲しゐる者が俄に差控へて却て米耕作に後戻りするの飯あるに似たり既に某縣に於ては今日にても養蠶の一方の北最も著しくして後來全國中屈指の蠶業地と爲る可き見込ゞ充分なれども其縣下の豪農地主い依然米耕作に執着して頑然動かざるより有志者は変々これに利害を說き且つ公益の爲めもあれバとて强て養蠶を促しゐるに本人も亦時勢を察し悟りたる所もあるか昨年中試に所持の田畑幾町歩に桑を植ゑ大に蠶業を盛んにする の計畫まで整頓ゐたるに適々米輸出の盛みゐる其次第と米質改良と助け以て全國蠶業進歩の氣運を妨げんとするは蔵ふ可らざる事實なるが如し

前線の事實果して是ならば資本金力に富む所の豪農は彌よ〳〵保守に流れて新規の業を執るゝを忌嫌し隨て小民は目前の利を逐ふに忙はしく永遠に實力の助けを失ひ變方互に聯絡して大に蠶業の發達を害するの憂慮あかる可きや經世家の掛念に堪へざる問題ゐれば我輩も不敏あゞら後時觀見を開陳して大方の敬と乞はんとする者ゐるなり

（完）

官報

○傳事館書記生赴任　領事館書記生伴新三郎、同高杉東一の兩名は去る十日布哇國ホノルヽ府に向ひ俱に出發赴任せり

○宮城縣製氷貯藏數　宮城縣に於て製氷貯藏の儀と願出てゐる者は計六十五人にまて內許可せしもの五十五人禁止せし者九人願書却下せゐ者一人ゐり（宮城縣）

○電報電話及料金　逓信省內信局に於て調査せる本年一月中各郵便電信局及電信局に於て取扱ひたる電報發信數並に料金の概算頃い左表の如し（逓信省）

		一月	二月
內國通信	電報	三四二、九九一	三一、二六九
	料金	一九四、八四八円	二、六〇六円
內國文通	電報	金四五、七〇三	金一、六八五
	料金	一九、一三二	三四二、九九一
	電報	二、九一五	五〇、四〇一
	料金	二〇四・三八円	二〇〇、三六九円
海外和歌文	電報	金八、七〇四	金五六、〇九三
	料金	一九、一三二円	一、一九円

○四日市船舶出入　三重縣下四日市港去月中船舶出入の數は出入とも汽船六百六十七艘、西洋形帆船五艘、日本形船五百五十一艘合計千二百二十三艘なり（三重縣）

○入京免狀下附數　兵庫縣に於て去月中外國人へ下附せし入京免狀は總計四十四枚にして之を國別それば英國人二十一枚、米國人十三枚、澳地利及佛蘭人各二枚、獨逸人四枚、葡萄牙人及清國人各一枚なり（兵庫縣）

○獨逸露三國の國境屯在兵　獨逸露の三國が各々其國境に屯在せしむる兵數を比較したる一覽表を見るに獨國はガリチイン州に於て二軍團、歩兵四師團、騎兵二師團、歩兵大隊五十九大隊、騎兵大隊五十四大隊、野砲隊二十二隊及騎砲隊四隊と有て獨逸國はプロイセン、ポーゼン及シュレーゼインの三州に於て三軍團半、歩兵七師團、騎兵一師團及五旅團、歩兵大隊百六大隊、騎兵大隊九十五大隊、野砲隊六十隊及騎砲隊九隊を有し露國はウィルナ、ワルシヤーワ及キーエフの三軍區に於て八軍團半、歩兵二十師團、騎兵十師團及一旅團、歩兵大隊三百三十六大隊、騎兵大隊二百四十九大隊、野砲隊百二十隊及騎砲隊二十隊を有す即ち露國れ兵數い獨逸露國の軍兵と合算したる數よりも多きと三軍團、歩兵九師團、騎兵五師團、歩兵大隊百七十一大隊、騎兵大隊百六大隊、野砲隊三十八隊、騎砲隊七隊なりとす（昨年十二月廿三日獨逸アルゲマイチ ツァイツング）

雜報

○フランプライ氏　運羅國大使の隨行員侍從試補フランプライ氏い去る十日書記官幷鑛冶橋監獄本署等を巡觀したりしが不日帰國の節我國の警部巡査の被服幷携帶品其他手錠等と參考の爲め借受携帶し度旨を同廳へ依頼ゐたるよし

○地方官出京　前號に記載後出京せし地方官中國重富山縣知事い日本橋區西河岸町十七番地須原方へ田邊高知縣知事は京橋區尾張町一丁目二番地林方へ酒井德嶋縣知事い京橋區日吉町十三番地へ森本京都府書記官は日本橋區吳服町三十二番地柳原方へ後藤宮城縣書記官は神田區淡路町二丁目一番地坂田方へ何れも止宿しゐるよし

○女子英語教授　去る一月中三田二丁目二番地慶應義塾構內なる同塾雇教師文學士ロイド（英人）氏方に於て午後三時より五時迄女教師ミス イースト の教授する英語科は開業以來日智淺きも漸次入學女子の增加を見るに至り右女教師が授業上に溫和心切なるは頗る生徒の欣悦する所にてロイド氏の外、慶應義塾教員酒井良明氏も授業時間出席して監督するといふ

○西牙班の大雪　同國の都府マドリッドにてい近年稀ある大雪降りて市中の馬車は全く其業を休み各地方の汽車い通行を妨げられて中には十二時乃至十四時間も延着しゐるものありたるのみならず北部の鐵道線路にて荷車と客車と相衝突して死者數名負傷者二十餘名もありたる災厄を惹き起したりといへり

○徴兵者の救助法　千葉縣下夷隅郡深堀村にては從來徴兵適齡者の服役して其者の家計上非常に困難する事れ往々あるを以て一時申合せ凡十歲以上の男子を有する家にては若干宛の醵金と爲し置き徴兵に出ゐる者の留主宅へ三箇年間一箇年五十圓宛と惠與するの法を兩三年以前より實行ゑ來りたるが此程より隣村及其他の村々も之れに倣ひしに同縣の縣會議員諸氏の中にて大に之と贊成し縣下擧て同方法に倣ふは難かるもヒタヂは一郡丈にも施行せんと昨今協議中のよし

○上海商況（一月廿六日發）　上海商同會よりの週報に依れば其後連日晴天勝にて雨雪交々至り寒氣大に加ゞ蕭氏寒暖計三十三四度乃至五十度位を昇降せり却ち商況は一般弱の手合せあるも尤も當用小口もゐる賣易はに出づる絲、茶共に下にも是迄曾て

○役員改撰　長堀谷和氏、友野福太郎氏に撰擧し一昨

○鎗樓維持金　計と合せて金は一人一日鈴町四方の人給そる都合が發企し鎗樓に預け置き林

○支那人の葬式　人動廠復（十家より一頭の廻す折柄小田く鎧と外れ

れ僅に引き命も覺束なり自下十全

○上海通信　清國政事納と期し各官衙して政事

と諸官吏に問徐氏の歸鄉十日を以て暮に切迫し鄉里にて更に北上參

水災餘報　如くなるが公債を募集民の救助に地方は老弱

よしにて退門前に食と取調べて

は幾百千人ざることも

費金は既に

へば扨い政

に割畫する

困難にて當

を屠るよし

河野主一郎氏

一旦清國せし

水產商會開設

○和歌山通信